

「この台本の記載は、本編音声とは一部内容が異なることがあります。」

【ローザB】ほら、いつまで休んでるの。四つん這いになりな。今度はアナルにオシオキするよ。

【ローザA】まだオシオキ続くんですかみたいな顔してないで、さっさと四つん這いになりな、ほら。

主人公、指示通り四つん這いになる。

【ローザB】もう開発済みなんだろう、ここ… 太いのくわえ込んで放さなくなっちゃうんだろう？

【ローザA】はい、ゴム手。

【ローザB】ありがと。

ローザB、主人公の尻を右足で踏みつけながら手袋をはめる。

【ローザA】ローションをたららら…ほら、これで準備OK。

【ローザB】さ、入れるわよ。まずは中指一本からね。ん…あらあら、するつて入っちゃった。ほら…吸い込まれるみたいに入っちゃったわよ。んふふつ。

【ローザA】今度は二本入れてみよっか、ほら。力…抜いてごらん。入つてく…ああゝやつぱり指二本でも簡単に入つっちゃう。

【ローザA】お前のアナル、ガバガバの淫乱ケツマンコってわけね。ittai誰にこんなに拡げてもらったの？ ん？ それとも…自分でオナニーしながら拡げちゃったのかい？

主…じ、自分でやりました。

【ローザA】へえそう、自分でやったの。お前ときたらチンポだけじゃなくケツマンコでも快楽を追求しちゃう淫乱どスケベ野郎ってわけなのね。んふ…んふふふふつ。

【ローザB】ま、それはそれで話が早いわ。一番感じる場所……自分でもわかってるんでしょう？ 当ててあげようか……ん……ここだね、ほおらつ。

主人公、いきなり声をあげる。

【ローザA】あはっ、どうしたマゾブタ。いきなり恥ずかしい声出して。女王様に一発で前立腺の場所を探し当てられて、たまらず声出しちゃったの？ ん？

【ローザB】ほらこ……こがいいんでしょ？ ほら……ほらほら……ほらほらほら……ほらほらほらほらほらほらほら。

【ローザA】どうしたあ？ んふふ、どうしたどうしたあ？ そんな恥ずかしい声で悶えて……。女王様の指……そんなに気持ちいいのかい？ ん？

【ローザB】体の奥から快感が突き抜けてくるような感覚……たっぷり味わうといいわ。ほおらつ。……あはっ、入口キュッキュツてすぼめたり拡げたりして……、ずいぶん気持ちよさそうだねえ？

【ローザB】足ガクガクさせてないで、ちゃんと四つん這いになつてなきやだめでしょ？ お尻を高く突き出して……そう、そうだよ。

【ローザA】ん？ このなの初めて？ こんなにケツマンコ気持ちいいの初めてなの？ そう、よかつたじやないの。もつといじめてもらいたいな、ほら。

【ローザB】んふふ……、指を出し入れしながら前立腺を刺激してあげる。こうされるとほら……たまんないでしょ？ ねえ？ ほら……ほらほらほら……ほらほらほら。

【ローザA】そう、そうよ。お前のケツマンコは今、女王様に犯されてるの。女王様の指でケツマンコをかき回されて、男の一一番感じるポイントをズンズンって突かれて、お前……犯されてるんだよ。

【ローザB】女の子みたいによがつて“らん。ほら……、とつてもいやらしくて、恥ずかしい声でよがりな？

【ローザA】恥ずかしがることなんかないの。これまでで十分、恥ずかしい姿を私たちの前にさらしてきたんだもの。いまさら自分を取り繕つたつてしまわないだろう？

【ローザB】ま、別に取り繕つても構わないけどね。無理矢理よがらせちゃうだけだから。ほら、ほらほらほら、ほらほらほらほらっ。

【口一ザ A】 そうそう、そうやつていい声で泣くの。とってもかわいいよお前。
とってもかわいくて……、とっても無様だ。くすくすくすくすつ。

【ローザB】前立腺だけで絶頂しちゃうようなスケベケツマンコに改造してあげようか、これ？ オスアクメでイきまくり状態になつて、頭がおかしくなるくらいの快感で、もうなにがなんだかわからない状態に……。

【口一ザA】お前みたいなマジブタなら、そんな風に調教するのは簡単だらうねえ。ほら、お返事してごらん。改造してほしいの、してほしくないの。

主…してほしいです。お願いします。

【ローザA】そんなにくつちやつて大丈夫?
前は地獄の苦しみを味わうことになるんだよ。苦しくて苦しくて、つらくてつらくてどうしようもなくて……。

【ローザB】そこを乗り越えたところに最高の快楽があるのさ。お前みたいに根性のないマゾブタには無理だよ。諦めな。

【口一サA】それとも……私たちに根性見せてくれるの？マゾブタはマゾブタなりに、一生懸命私たちの責めに耐えてみる勇気……ある？ん？

【ローザA】途中でのギブアップは絶対に認めないけど……いいね？ 泣きなが
ら許しを乞うても認めないよ。

主
…
やります
○
がんばります
○

【ローザA】本当にいいんだね？
……よし、わかった。お前のこと、地獄に突き落としてあげる。

【ローザB】まずはいつたん指を抜いて……と。

【ローザA】ほら、こっちおいで。」の台の上に上がりな。上がつたらそのままじつとしてな。

【ローザB】ええと……、これ……がちょうどいいかな。台の上に取りつけて……と。

【ローザA】黙つて、「らん、お前の足元に何が立つてる？

主…デイルドです。

【ローザA】そう、デイルドだね。ローションがかかつてぬるぬるになつてる。

【ローザA】ただのデイルドじゃないよ。私のコレクションの中から、お前のケツマンコの形に一番合うものをチョイスしたの。この張り出した部分がお前の前立腺をぐりぐりと刺激してくれるよ。

【ローザB】お前は今から、これに騎乗位で挿入するの。この真っ黒に光るオモチャのペニスでケツマンコを貫かれて、オスアクメに達するまで腰を振り続けるんだよ。

主…で、でも……。自分でですか？

【ローザA】ん？　ああ、そうだろうね。騎乗位なんてしたことないだろうね。一応お前は、オスなんだものね。だからなんだというの？　つべこべ言わずにはら、ケツマンコをペニスの先にあてがいな。

【ローザB】足を大きく開いて……、お前のケツマンコにペニスがずつぷりと入っていく様を……、んふふつ、しっかりと見せてごらん。

主人公、台の上にしゃがむような格好で挿入を始める。

【ローザA】ゆっくり……、お尻の力を抜いて……、んふ……少しずつ入れていきな。そう、そうだよ……。んふふふつ。

【ローザB】ふふ……苦しいかい？　でもまだ半分しか入つてないよ。あと一息……もう少し頑張つてごらん。

【ローザA】あは……全部入つた。入っちゃつたよお前。ケツマンコ犯されちゃつたよ。

主人公、苦しそうな、切なそうな表情を見せながら悶える。

【ローザB】もう腰をガクガクさせて……、前立腺の刺激……すごいだろ？ バイブのでつぱりで一番気持ちいいところがちょうどよく刺激されて……、うふふっ、たまんないみたいだねえ。

【ローザA】ほら、まずはゆっくりでいいから動いてごらん。

主人公、苦しくて自分では動けないと訴える。

【ローザB】なに、気持ちよすぎて足がしびれちゃうの？ ヘえ、よかつたねえ。……だからなんなのさ。命令に従えないなら、またムチで調教してあげようか？ ん？

主人公、ムチの恐怖におびえ、どうにかこうにか動こうとする。

【ローザA】そう……そうやつて『こちや』『こちや』言わずに最初から動いてればいいんだよ。まったく、マゾブタってのは口ばっかり達者で困るよ。人間以下の存在のくせにさ。

【ローザB】どう、気持ちいい？ つらい？

二人のローザは苦しくも切なげな表情を浮かべながら腰を動かす主人公を左右から挟み込み、その耳を犯して心理的に圧迫を加えていく。

【ローザA】おなかの中がはちきれそうで……苦しいんだろう？ でも……しびれるような快感で全身が幸せになつてしまつてるんだろう？ ほら……もっと幸せにしてやる。両耳……犯してやる。

【ローザA】腰……動かし続けな。

【ローザB】お前が快樂をむさぼる姿……見せて『ごらん。

【ローザA】いいわよお……もつと腰振りなさい。もつと悶えて。欲望のままに腰を振って、あられもない姿を見せてみなさい。

【ローザB】女の子みたいに腰を……体をくねらせながらケツマンコで感じるんだよ。恥ずかしい声で泣き悶えて、私たちを楽しませて『ごらん。

主人公、だんだん苦しさよりも快楽の方が勝つてくる。いつもすれば身体がきつくなく、どうすれば気持ちよくなれるかを次第に学習し、積極的に快楽をむさぼつていく。

【ローザA】くす……くすぐす……。だんだん大胆になってきたねえ。恥ずかしさよりも気持ちよさの方がまさつてきたんじゃないの？ ん？ 「おのいやらしいマゾブタが。

【ローザB】うれしい？ うれしいかい？ 自分のいやらしくて情けない姿を私たちに見てもうれてうれしいかい？

【ローザA】自分がどれだけ恥ずかしいことをしているか……、お前、わかつてる？

@3064/R05V

【ローザB】ふふ……ふふふふ。それどころじゃないよねえ。気持ちよくて気持ちよくて、もうしないんだものねえ？ ああ、いやらしいマゾブタだこと。

【ローザA】ふふ……だんだんワケがわからなくなってきたみたいだね……。

【ローザB】騎乗位でケツマンコを犯されて……、自分で腰を振つて……、もう気持ちよくなる」としか頭にないみたいだねえ。このマゾブタは。

【ローザA】「もーといやらしい声で泣いて「ふん。理性なんか捨てて快楽におぼれちゃいな。お前が泣きながら悶える様子……じっくり見ててあげる。んふふふふ」。

【ローザB】とつてもかわいいわよお。ほら、もっと悶えて……、もっと泣いて「ほらん？ ケツマンコにチンポズボズボ入れられて気持ちよくなっちゃうマゾブタの醜態……もつと見せて？ ほら。

@3075/L05V/M15

【ローザA】ふふふ……どう？ 私の言葉で心を犯されるの。気持ちいい？ ねえ？ 私に服従させられるの……気持ちいい？ ん？

主・ふあ？ ……ふあい、気持ちいいれすう……。オマンコ気持ちいいれすう。

【ローザB】すっかり従順になっちゃって……んふふふふ。お前の心……徹底的になぶつてあげる。なぶつてなぶつてなぶりまくつて……絶対に私には勝てないんだって思い知らせて……、女性に屈服させられる喜びでお前の心……焼き尽くしてあげる。

【ローザA】お前の体も、お前の心も、もう全部私のもの。身体だけじゃなく心も犯されて、普通の人間なら耐えがたいような屈辱を受けているのに……、お前ときたら淫らに悶えて、泣き声をあげて……。

【ローザB】ほらもつと泣け。自分のみじめさをかみしめながら泣け。泣けば泣くほど……、お前の心は快感で真っ白になっていくの。だつてお前は……、マゾなんだもの。んふふ……んふふふふ。

【ローザA】どうしたの？　だんだん切なそうな顔になつてきたわよ。イキそうなの？　ん？　ケツマンコでオスアクメ迎えちゃうの？

@3086/R05V

【ローザB】イつたりしないよね、まさか。ケツマンコだけでいくわけないわよねえ？

7

【ローザA】ケツマンコの中の、男が一番感じる部分をこれでもかつていうくらい刺激されて……、もう意識飛びそうなくらい気持ちよくなつてるんでしょ、ねえ？

主　ああああ、イキそうです。イッちゃうイッちゃうイッちゃうううう。

【ローザB】そう、イッちやうの。ケツマンコ犯されてイッちやうの。我慢しなくていいのよ。お前がオスアクメを迎えてアヘ顔さらしちゃうところ……私たちに見せなさい。

【ローザA】ほら……イケ。イキな。アクメ迎えちゃいな。アンアン泣きながら……恥ずかしくイッちゃいな。

【ローザB】イケ……。ほら……イケイケイケ。真っ白になっちゃいな。ケツマンコ犯されて意識はじけさせちゃいな。

【ローザA】んふふ……、イったね。

【ローザA】ほら、いつまで休んでるの。さつさとチンポ抜きな。自分をイかせたチンポ……名残惜しいかもしれないけどね。くすくすくすつ。

主人公、フラフラになりながら立ち上がり、台から降りる。

【ローザB】そんなに膝ガクガクさせて……よほど気持ちよかつたんだねえ。もうお前の体……、完全にマゾブタに仕上がっちゃったよ。うふふふつ。

床にへたり込んだ主人公、涙目でもうムリですとローザに訴える。二人のローザは、そんな主人公を残酷な微笑を浮かべながら見下ろす。

【ローザA】もうヘロヘロでゆっくり休みたいって感じだろうけど……。残念ね、プレイ時間はまだまだ残ってるし、私はそんなに優しくないの。

【ローザB】これからまだまだたっぷり悶えてもらうわよ。もっともっとお前の心と体を責めぬいて……、極限まで追いつめてあげる。んふふ……うれしいでしょ？